

英米本位の平和主義を排す

近衛文麿

戦後の世界に民主主義人道主義の思想が益々旺盛となるべきは最早否定すべからざる事実といふべく、我国亦世界の中に国する以上此思想の影響を免かる、能はざるは当然の事理に属す。

蓋し民主主義と言ひ人道主義と言ひ其基く所は実に人間の平等感にあり。之を国内的に見れば民権自由の論となり、之を国際的に見れば各国民平等生存権の主張となる。平等とは個人的若くは国民的差別を払拭するの意に非ず、個人としては其個性を、国民としては其国民性を十分に發揮せしむるに当り、之が障害となるべき一切の社会上の欠陥、例之政治上の特権経済上の独占の如きものを排除して以て其個性若くは国民性の發揮に対する機会を均等ならしむるの意なり。かくの如き平等感は人間道徳の永遠普遍なる根本原理にして、所謂古今に通じて誤らず中外に施して恃らざるものなり。固陋の徒或は平等の語を聞いて我国体に反するが如く考ふると雖も、我国体の観念は此人類共通の根本的倫理観念を容る、能はざる程しかく偏狭のものに非ずと信ず。

何はともあれ、民主主義人道主義の傾向を善導して之が發達を期するは我国の爲にも吾人の最も希望する事なるが、唯茲に吾人の遺憾に思ふは我國民がとかく英米人の言語に吞まる、傾ありて彼等の

れつ、も尚平和に執着するはこれ人道主義の敵なり。平和主義と人道主義とは必しも一致せず、吾人は人道の為に時に平和を捨てざる可らず。英米論者は平和人道と一口に言ひ、我国にも之に倣ひて平和即人道也とする迷信家あれど、英米人の平和は自己に都合よき現状維持にして之に人道の美名を冠したるもの、ショウの所謂自己の野心を神聖化したるものに外ならず。彼等の宣言演説を見るに皆曰く、世界の平和を攪乱したるものは独逸の専制主義軍国主義なり、彼等は人道の敵なり、吾人は正義人道の為に之を膺懲せざる可らず、即ち今次の戦争は専制主義軍国主義に対する民主主義人道主義の戦なり、暴力と正義の争なり、善と悪との争なりと。吾人と雖、今次戦争の主動原因が独逸にありし事即ち独逸が平和の攪乱者なる事は之を認むるのみならず、戦争中に於ける独逸の行動が正義人道を無視したる暴虐残忍の振舞多かりし事に対しては深甚の憎悪を禁ざるものにして、英米の論者が是等の暴力的行動を罵るは誠に当然なりと思考するものなれど、彼等が平和の攪乱者を直に正義人道の敵なりとなす狡猾なる論法に対しては其の根拠に於て大に不服なきを得ず、平和を攪乱したる独逸が人道の敵なりとは欧洲戦前の状態が人道正義より見て最善の状態なりし事を前提として初めて言ひ得る事なり。知らず、欧洲戦前の状態が最善の状態にして、此状態を破るものは人類の敵として膺懲すべしとは何人の定めたることなりや。

吾人を以て之を見る、欧洲戦乱は已成の強国と未成の強国との争なり、現状維持を便利とする国と現状破壊を便利とする国との争なり。現状維持を便利とする国は平和を叫び、現状破壊を便利とする国は戦争を唱ふ。平和主義なる故に必しも正義人道に叶ふに非ず軍国主義なる故に必しも正義人道に反するに非ず。要は只其現状なるもの、如何にあり。もし戦前の現状にして正義人道に合する最善の状態なりしならば、之を打破せんとするものは正義人道の敵なるべく、もし其現状にして正義人道に

言ふ民主主義人道主義の如きをも其儘割りもせず吟味もせず信仰謳歌する事是なり。勿論吾人は英米政治家の云ふを全部誠意なきものとなすに非ず。ウキルソンの如き、ロイド・ジョージの如きは、真摯熱誠なる人道の愛護者なるを認むるに躊躇せずと雖、世には善良なる人にして自ら意識せずして虚偽を為す事あり。動機に於て純なるも結果より見て不純なりしを曝露する事往々にしてこれあり。況んや蠢々たる他の群小政治家・評論家・新聞記者の言動に於てをや。

會つてバーナード・ショウは其「運命と人」の中に於てナポレオンの口を藉りて英国精神を批評せしめて曰く「英国人は自己の欲望を表すに当り道德的宗教的感情を以てする事に妙を得たり。しかも自己の野心を神聖化して発表したる上は何処迄も其目的を貫徹するの決断力を有す。強盜掠奪を敢てしながらいかなる場合にも道德的口実を失はず、自由と独立とを宣伝しながら殖民地の名の下に天下の半を割いて其利益を壟断しつゝあり」と。ショウの言ふ所稍奇矯に過ぐと雖、英国殖民史を読む者は此言の少くも半面の真理を穿てるものなることを首肯すべし。

吾人は我国近時の論壇が英米政治家の花々しき宣言に魅了せられて、彼等の所謂民主主義人道主義の背後に潜める多くの自覚せざる又は自覚せる利己主義を洞察し得ず、自ら日本人たる立場を忘れて無条件の無批判的に英米本位の国際聯盟を謳歌し、却つて之を以て正義人道に合すと考ふるが如き趣あるを見て甚だ陋態なりと信するものなり。吾人は日本人本位に考へざる可からず。日本人本位とは日本人さへよければ他国はどうでもかまはぬと言ふ利己主義に非ず。斯る利己主義は誠に人道の敵にして、戦後の新世界に通用せざる旧思想なり。吾人の日本人本位に考へよとは、日本人の正当なる生存権を確認し、此権利に対し不当不正なる圧迫をなすものある場合には、飽く迄も之と争ふの覚悟なかる可らずと言ふ也。これ取りも直さず正義人道の命ずる所なり。自己の正当なる生存権を蹂躪せら

叶はざりしならば、此現状を打破したるもの必しも正義人道の敵に非ざると同時に、此現状を維持せんとせし平和主義の国必しも正義人道の味方として誇るの資格なし。而して歐洲戦前の現状なるものを英米より見れば或は最善の状態なりしならんも、公平に第三者として正義人道の上より之を見れば決して最善の状態と認むるを得ず。英国の如き仏国の如き其殖民史の示す如く、早く已に世界の劣等文明地方を占領して之を殖民地となし、其利益を独占して憚らざりしが故に、独り安逸とのみ言はず、凡ての後進国は獲得すべき土地なく膨張發展すべき余地を見出す能はざる状態にありしなり。かくの如き状態は実に人類機会均等の原則に悖り、各国民の平等生存権を脅かすものにして正義人道に背反するの甚しきものなり。安逸が此状態を打破せんとしたるは誠に正当の要求と言ふべく、只彼が採りし手段の中正穩健を欠き、武力本位の軍国主義なりしが故に一世の指弾を受けたりと雖、吾人は彼が事茲に至らざるを得ざりし境遇に対しては特に日本人として深厚の同情なきを得ず。

要之、英米の平和主義は現状維持を便利とするもの、唱ふる事勿れ主義にして何等正義人道と關係なきものなるに拘らず、我國論者が彼等の宣言の美辞に酔うて平和即人道と心得其國際的地位よりすれば、寧ろ安逸と同じく現状の打破を唱ふべき筈の日本に居りながら、英米本位の平和主義にかぶれ國際聯盟を天来の福音の如く渴仰するの態度あるは、実に卑屈千万にして正義人道より見て蛇蝎視すべきものなり。吾人は固より妄りに國際聯盟に反対するものに非ず。もし此聯盟にして真実の意味における正義人道の觀念に基きて組織せらるゝとせば、人類の幸福の爲にも國家の爲にも、双手を挙げて其成立を祝するに吝なるものに非ずと雖、此聯盟は動もすれば大國をして經濟的に小國を併呑せしめ、後進国をして永遠に先進国の後塵を拝せしむるの事態を呈する恐なしとせず。即ち此聯盟により最も多く利する者は英米兩國にして、他は正義人道の美名に誘はれて仲間入をしながら殆ど何の得

る所なきのみならず、益々經濟的に萎縮すると言ふ如き場合に立至らんか、日本の立場よりしても正義人道の見地よりしても誠に忍ぶ可らざる事なり。故に来るべき媾和會議に於て國際平和聯盟に加入するに当り少くとも日本として主張せざる可らざる先決問題は、經濟的帝國主義の排斥と黃白人の無差別的待遇是なり。蓋し正義人道を害するものは独り軍国主義のみに限らず。世界は安逸の敗北によりて硝煙彈雨の間より救はれたりと雖、國民平等の生存権を脅かすもの何ぞ一に武力のみならんや。

吾人は黄金を以てする侵略、富力を以てする征服あるを知らざる可らず。即ち巨大なる資本と豊富なる天然資源を独占し、刃に齧ずして他國々民の自由なる發展を抑圧し、以て自ら利せんとする經濟的帝國主義は武力的帝國主義否認と同一の精神よりして当然否認せらるべきものなり。

吾人は戦後大に其經濟的帝國主義の鋒銳を露はし来るの恐ある英米兩國を立役者とする来るべき媾和會議に於て、この經濟的帝國主義の排斥が如何なる程度迄徹底し得るや、多大の疑懼なきを得ず。しかも若し媾和會議にして此經濟的帝國主義の跋扈を抑圧し得ずとせんか、此戦争によりて最も多くを利したる英米は一躍して經濟的世界統一者となり、國際聯盟軍備制限と言ふ如き自己に都合なる現状維持の旗幟を立て、世界に君臨すべく、爾余の諸國、如何に之を凌がんとするも、武器を取上げられては其反感憤怒の情を晴らすの途なくして、恰もかの柔順なる羊群の如く喘々焉として英米の後に随ふの外なきに至らむ。英国の如き早くも已に自給自足の政策を高唱し、各殖民地の門戸を他國に對して閉鎖せんとするの論盛なり。英米兩國の言ふ所と行ふ所との矛盾撞着せる概ね斯の如し。吾人が英米謳歌者を警戒する所以、亦実に茲にあり、もしそれかくの如き政策の行はれんか、我國にとりては申す迄もなく非常なる經濟上の打撃なり。領土狭くして原料品に乏しく、又人口も多からずして製造工業品市場として貧弱なる我國は、英国が其殖民地を閉鎖するの晝に於て、如何にして國家の安

全なる生存を完うするを得む。即ちかゝる場合には我国も亦自己生存の必要上戦前の独逸の如くに現状打破の挙に出でざるを得ざるに至らむ。而して如斯は独り我国のみならず、領土狭くして殖民地を有せざる後進諸国の等しく陥れらるべき運命なりとすれば、吾人は単に我国の為のみならず、正義人道に基く世界各国民平等生存権の確立の爲にも、経済的帝国主義を排して各国をして其殖民地を開放せしめ、製造工業品の市場としても、天然資源の供給地としても、之を各国平等の使用に供し、自国にのみ独占するが如き事なからしむるを要す。次に特に日本人の立場よりして主張すべきは黄白人の差別的待遇の撤廃なり。かの合衆国を初め英国殖民地たる濠洲加奈陀等が白人に対して門戸を開放しながら、日本人初め一般黄人を劣等視して之を排斥しつゝ、あるは今更事新しく喋々する迄もなく、我國民の夙に憤慨しつゝある所なり。黄人と見れば凡ての職業に就くを妨害し、家屋耕地の貸附をなさざるのみならず、甚しきはホテルに一夜の宿を求むるにも白人の保証人を要する所ありと言ふに至りては、人道上由々しき問題にして、仮令黄人ならずとも、苟も正義の士の黙視すべからざる所なり。即ち吾人は来るべき媾和會議に於て英米人をして深く其前非を悔いて傲慢無礼の態度を改めしめ、黄人に対して設くる入国制限の撤廃は勿論、黄人に対する差別的待遇を規定せる一切の法令の改正を正義人道の上より主張せざる可らず。想ふに、来るべき媾和會議は人類が正義人道に基く世界改造の事業に堪ふるや否やの一大試練なり。我国亦宜しく妄りにかの英米本位の平和主義に耳を藉す事なく、真実の意味に於ける正義人道の本旨を体して其主張の貫徹に力むる所あらんか、正義の勇士として人類史上永へに其光榮を謳はれむ。

(大正七年十一月三日夜誌す)

(『日本及日本人』一九一八年十二月十五日号)

(出典 『清談録』一九三六年)

内田外相に問ふ

清沢 洌

一、乗り合せた船客

内田外相足下。

私はあなたの外交、従つてあなたに対して甚大な不満と懸念を有するものなのです。今までわれ等は、事外交に関するが故に、そしてわが国が重大なる國際的岐路に立つが故に、出来るだけ力を一にして、この難局を切りぬけることに努めて来た。時にあなたの政策に対して雲のやうな疑惑が湧いたことがあつたけれども、その時にさへわれ等は時局の重大さに鑑みて、好意ある沈黙を守つて今に到つたのです。

しかしながら差し迫まる國家の安危と、われ等の良心は、これ以上にわれ等をして沈黙することを許さない。國家は船、われ等は乗り合せた船客である。怒濤にもまれる船の運命を氣遣ふ点において、船橋に立つあなたと、船底の一隅にあるわれ等と何等の相違があるものではない。沉んやわれ等の沈

戦後日本外交論集
— 講和論争から湾岸戦争まで

一九九五年二月三〇日初版印刷

一九九五年二月一〇日初版発行

編者 北岡伸一

発行者 鳴中行雄

印刷 図書印刷

カバー印刷 大熊整美堂

製本 小泉製本

発行所 中央公論社

〒東京都中野区喜多町二丁目八七

電話 編集部 〇三三五六三二四三二

編集部 〇三三五六三三六六六

振替 〇〇二二〇四二四四

©一九九五 検印廃止

ISBN4-12-002520-9 C0031

Printed in Japan

◇定価はカバーに表示しております。
◇落丁本・乱丁本はお手数ですが小社販売部宛お送り下さい。
送料小社負担にてお取り替えます。

北岡伸一
1948年東京大学法学部
東京大学法学部
法学博士